

#### ■ポイント4：消毒槽の沈殿を防ぐ「浮蓋」

液面上に浮き蓋を設置することが最近推奨されています。浮蓋には穴を幾つか設けて長靴で踏んで蓋が下がると液が出てくると同時に内部の攪拌を行います。広島県は中四国地方では際だって冬の気温低下が厳しいため、浮蓋を設置することで凍結予防にもなります。



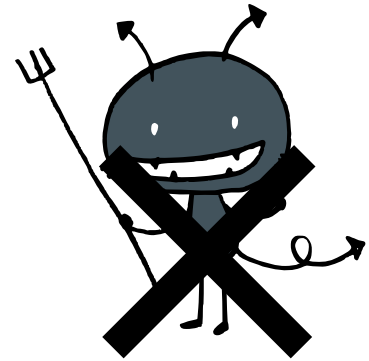
〔横昭和フランキの浮蓋〕

踏み込み時に長靴で消毒液の攪拌(かくはん)をすることは実際難しいのですが、浮き蓋を踏み込むことにより、浮き蓋に開けられた穴から消毒液が噴出して、全体がほぼ均等になります。



#### ■ポイント5：消毒槽は屋根の下がベスト！

雨が入ってあふれたり、凍結、雪が積もって使用出来ない踏み込み槽を時折見ることがあります。消毒槽は、基本的には屋根の下に設置して下さい。凍結予防の東北や北海道の事例を見ると「市販の水槽用ヒーター」を活用している例があります。市販ヒーターを踏んでも壊れないように鋼管の中に設置するだけなので作業も容易で、参考になると思います。興味がある方は事業推進課までご相談下さい。



#### ■ポイント6：安くて簡単「消石灰」が効果的！

消毒に使用する薬剤ですが、踏み込み槽の場合は汚れることが多いので交換頻度が高くなります。したがって、①入手が容易、②単価が安い、③処分が容易等がポイントになります。これらの条件から「消石灰」が多くの農場で使用されています。

実際に10%程度の濃度(水10ℓに消石灰1Kg)の消石灰乳は、作成時のPH12.5から1ヶ月程度経過してもPH12.4への低下に収まっているという研究報告もあるので、非常に有効であると考えられます。しかも、糞尿も弱アルカリ性ですから、その混入にも比較的効果が期待できます。

しかし、消石灰においても腐食や刺激性はあるので、保存や取り扱いには十分注意が必要です。より腐食や刺激性の低いドロマイト石灰等を使用する場合もあります。

#### ■損失リスクを防ぐ未然防止が大事!!

何れの方法においても、踏み込み槽の設置は僅かな手間で大きな乳量損失・経済損失を防ぐ一歩となります。大きな伝染病が発生した経験がなくても、春・秋の季節の変わり目に下痢が発生して、50Kg～100Kg、又はそれ以上の乳量低下を経験された牧場も多いと思います。

もし、1～2回でもそれが予防されていれば経営的な損失予防効果は非常に大きいこととなります。是非とも、前向きに取り組まれ、消毒の徹底・自衛防疫に取り組みましょう。

事件は現場で起きています



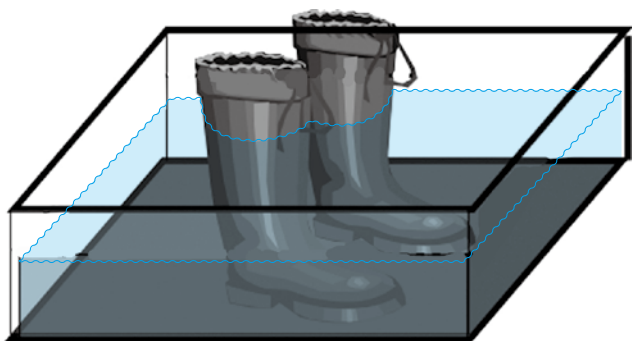
## 酪農経営に大きな影響を与える ウイルス侵入 「踏み込み槽」の設置が効果的！

広酪事業推進課 係長 大島達夫

宮崎県での口蹄疫による甚大な被害を受けて、全国的に自衛防疫による消毒槽の設置が進みました。そして、昨年10月には飼養衛生管理基準が見直され、飼養衛生管理区域の設定、消毒槽の設置、消毒実施有無等の確認が求められるようになりましたが、まれに「飼養衛生管理区域?めんど(面倒)くさいな」との声も聞かれます。今回は、踏み込み槽の設置の意味をもう一度考えてみると共に、そのポイントを紹介します。

### ■外部侵入を防ぐ「踏み込み槽」

衛生管理区域の設定では、看板の設置や立入者の記帳記録等もありますが、最も牧場側でメリットが大きいのは「踏み込み槽」の設置です。ポイントとなるのは、外部からの細菌やウイルスを持ち込まないことです。これらの侵入によって、乳用牛に与える損失は、年間通してみれば、大きな金額となります。



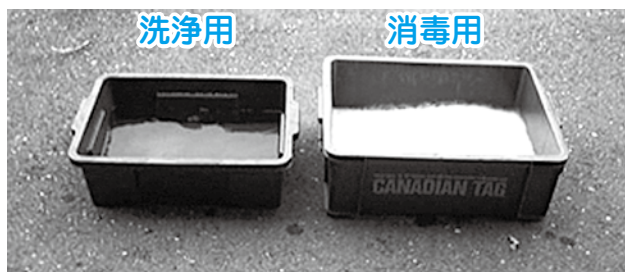
### ■「踏み込み槽」設置のポイント

踏み込み槽の多くは、プラスチックのコンテナボックスに消毒薬を入れて、それに踏み込むスタイルが殆どですが、実際に牛舎を訪問してみると、踏み込み槽が確実に設置(利用)されていない牧場も見られます。そこで消毒槽を設置する上で、幾つかの注意を紹介します。

#### ■ポイント1：消毒槽に入る前に良く洗う

多くの消毒薬は有機物、特に泥や糞尿等が混入すると効力が極端に低下します。踏み込み槽に入る前に靴を洗える水道等があると非常に有効ですが、実際は設置場所の都合上、困難な場合も多いので2つ

の槽を用意し、一つは予備洗い槽として設置すると非常に効果的です。



#### ■ポイント2：消毒槽で15～30秒起立！?

基本は薬剤にもよりますが、15秒から30秒は消毒槽に入って立っていることがポイントです。実はジャバ、ジャバと消毒槽を通過するだけでは殆ど意味がありません。槽の中に一定時間留まり立っていることに効果が高く、この徹底がポイントになります。

#### ■ポイント3：消毒槽の維持管理

～濃度や薬剤の維持に注意～

消毒薬を踏み込み槽に用意すると、多くの場合は上下部分で有効成分の濃度の差が生じます。極端に沈殿する消石灰を使用される方以外は、あまり実感されないかもしれませんが、実は消毒槽内の上下部分での有効成分の違いは相当に大きなものです。しかも、消毒薬の多くは日光により成分が分解されたり、液自体が蒸発して減量します。